

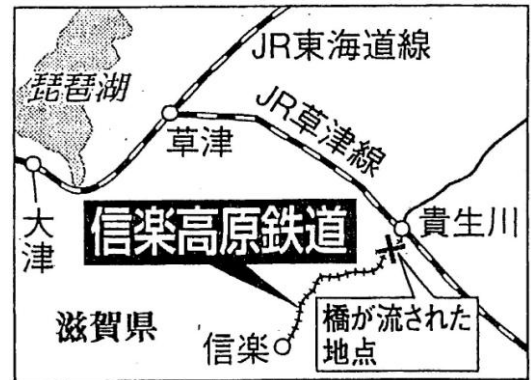
# 信楽高原鐵道の早期全面復旧を実現させましょう

甲賀市長宛の要請署名にご協力下さい

信楽高原鐵道の早期完全復旧を求める会

代表 奥田 義邦 信楽町牧 320 電話 83-0573

信楽高原鐵道は、9月16日の台風18号による豪雨災害により、貴生川駅近くの杣(そま)川橋梁の橋脚と橋げたが流され、この日以降、列車の運行が停止したままとなり代行バスの運送が始まっています。



信楽高原鐵道は、今年で開設80周年を迎えます。1933年(昭和8年5月)開設して以来、戦時中の昭和18年、戦況悪化に伴い、レールや枕木の供出を強いられ営業停止。戦後、町民総出で3,000本の枕木を敷き、線路が再敷設され1947年(昭和22年)に復活にこぎつけたことや、昭和40年代の国鉄経営再建・解体に合わせた信楽線切り捨てに対して、「乗って残そう信楽線」を合い言葉に守りぬいてきました。

それこそ町民の「汗と涙の信楽線」です。また、年間50万人の利用者うち七割は高校通学のための利用で、子供たちにとっても大切な路線です。

今年4月からは、上下分離方式として、新しい道を歩みはじめたところでした。

「線路のない地域の過疎化はすすむ」と言われます。信楽高原鐵道の早期復旧をないがしろにして廃線の道を歩ませることは断じて許されません。



**上下分離方式**(じょうげぶんりほうしき)とは、鉄道・道路・空港などの経営において、下部(路線・鉄橋など)の管理と上部(運行・運営)を行う組織を分離し、下部と上部の会計を独立させる方式である。

4月1日より、信楽線の全線(貴生川～信楽間、14.7 km)に導入された。